

第26回アジア・太平洋雑草科学会議に参加して

公益財団法人日本植物調節剤研究協会
奥野 潤一

第26回アジア・太平洋雑草科学会議（APWSS：Asian-Pacific Weed Science Society Conference）が2017年9月19日から22日の4日間にわたり、京都府で開催された。日本での開催は、1995年のつくば開催以来、22年ぶりである。植調協会は展示ブースを設置した他、森田技術顧問がGolden Jubilee Memorial Lecture、濱村千葉支所長がPlenary Lectureとしてそれぞれ講演した。また、事務局の村岡氏、植調兵庫試験地の須藤、研究所の中村、穂坂および奥野の5名がそれぞれポスター発表を行った。

大会の概要

9月19日は午後から農研機構主催の雑草イネに関するシンポジウムがあり、大会受付は15時から行われた。受付スペースがあまり広くなかったことや、当日参加者が多くいたこともあり大混雑であった。同日17時30分からはWelcome Receptionがあり、多くの参加者が集い、国際学会に参加しているという雰囲気を強く感じた（写真-1）。

9月20日から本格的に学会がスタートした。本大会の参加者は450名程でそのうち日本人は150名程であった。発表演題数はポスター168



写真-1 Welcome Reception

題、口頭発表146題が行われるなど、盛況であった。

この日は午前からGolden Jubilee Memorial Lecturesとして6題の講演があり、その中に森田技術顧問の講演もあった（写真-2）。会場は満員で立ち見をしている人も多くいた。午後にはポスター発表（奇数番号）のコアタイムがあり、植調協会からは須藤、中村と私がここでポスター内容を説明した。日本人の発表者には日本人が多く集まり、外国人の発表には外国人が集まる傾向があった。特に私のポ

スターは日本の芝地での雑草に関する内容だったこともあり、見に来てくれた人はほとんど日本人だった。ポスターの前にはA3判で印刷したポスターをフリーペーパーのように置いておいたが、大会終了時にはほとんどなくなっていた（写真-3）。

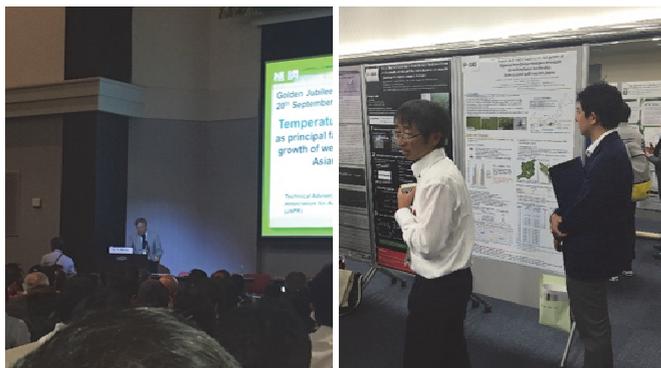


写真-2 森田による講演 写真-3 ポスター発表（奥野：右）

9月21日の午前は、2題のPlenary Lecturesがあり、1題目が濱村氏の講演だった。こちらも満席で立ち見をしている人が多く、盛況であった（写真-4）。午後にはポスター発表（偶数番号）のコアタイムがあり、植調協会からは村岡および穂坂がそれぞれのポスター前で研究成果を説明した（写真-5）。



写真-4 濱村による講演 写真-5 ポスター発表（中村：右）

この日の夜はConference Diner（懇親会）が京都東急ホテルで開催され、多くの大会参加者が参加した。立食形式であったが、各テーブルには海外参加者向けに開催された「折り紙ワークショップ」で作られた小さい折鶴が用意さ

れており、日本らしさが感じられた。また、乾杯時には鏡割りが行われ、中盤には舞妓さんが登場し、日本の「おもてなし」が至る所に感じ取れ、海外からの参加者は非常にこやかにDinerを楽しんでいた（写真-6～8）。



写真-6 Conference Diner で行われた鏡割り



写真-7 Conference Diner での舞妓の舞い



写真-8 折鶴のおかれたテーブル

大会最終日の22日は口頭発表があり、私は除草剤抵抗性分野のセッションに参加した。除草剤抵抗性に関しては、午前のTarget-site-resistanceと午後のNon-target-site-resistanceに分かれており、聴講者も比較的多かった。Non-target-site-resistanceの分野はまだ研究事例が少なく新しい知見も少なかったが、発表の中で自分の研究のヒントとなるような例があったので今後役に立てていきたい。

企業展示：植調ブース

今回、植調協会では企業展示（写真-9）を行った。主に植調協会の紹介（ポスター展示およびパンフレット配布）、剤型の紹介（粒剤、フロアブル、ジャンボおよびマメツブの実物展示と散布動画の映写）、「雑草大鑑」などの書籍を紹介した。展示場所がポスター発表会場に近かったこともあり、ポスター発表のコアタイム時には多くの方々に展示を見学していただき、パンフレット（写真-10）を持ち帰っていただいた。また、剤型の紹介でジャンボ剤の拡散の様子等を動画にして上映していると、多くの方々が興味を持って視聴していた。アジア諸外国には植調協会のような組織がない国が多く、JAPRはどのような組織でどんなシステムで除草剤を評価するのかといった質問が多かった。他にも雑草イネが問題だという国が多いようで、

日本ではどのように対策しているか等の質問を多く受けた（写真-11）。



写真-9 植調ブースの様子

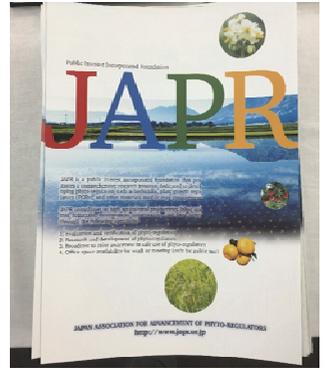


写真-10 英文による協会の紹介パンフレット



写真-11 協会ブースでの記念撮影

国際学会に初めて参加して

今回、私は初めて国際学会に参加したが、日本での開催ということもあり、あまり「国際学会に参加しているという実感」がないのではないかと予想していたが、いざ参加してみると海外の参加者も多く「国際学会に参加しているという実感」を感じることができた。また、ポスター発表では若干の不完全燃焼という感じが残ったので、英会話を含めて勉強して今後も挑戦していきたい（写真-12）。



写真-12 受付時にもらったもの